

漢字の音のいろいろ  
漢字によって「京」のように「東京」「京浜」「北京（ペキン）」など、異なったいくつもの音をもつ字があります。

同じ album というつづりが英語ではアルバム、ドイツ語ではアルブム、フランス語ではアルボムというように異なつて発音されます。

中国は、広さからいいますと、ヨーロッパ全体に匹敵するほどの広さがありますから、同じ漢字がその地方によって異なつた発音をするのは当然でしょう。

また、英語の「一」を表す one というつづりは十六世紀の「オウニー」という発音の言葉を表したもので、後に「オウン」と変わり、「ウオウン」と変わり、現在の「ワン」になりました。

わずか四百年の間でもこれだけ発音に違いが生ずるので、千年も昔に日本に伝えられた漢字にいくつもの発音があつても少しも不思議ではありません。

さて、漢字の「音」ですが、七世紀の初め、漢字の標準音が伝来した時を境にして、それ以前の呉地方（日本に最も近い所）から伝来した発音を「呉音」と呼び、この標準音を「漢音」と呼んで区別しました。

「京」「正」「明」「行」などの読みはみな呉音で、「京」「正」「明」「行」などが漢音です。「教」は呉音で、漢音はコウですが、この字は呉音が余りにも普及したので、漢音

は使われないで今日に及んでいます。

また、「絵」は、呉音がエ、漢音がカイです。エを訓としている辞典もあるほど、エは初めから日本語だったように思われがちですが、呉音です。

絵が漢字と共に日本に伝来するまで、日本には「絵」というものが無かつたので「絵」を表す日本語が無く、だから、訓が無い訳です。

※熟語の音  
さて、熟語の場合、同じ音で読むのが普通です。

「精霊」は、漢音ではセイレイ、呉音ではショウリョウです。「施行」は、漢音ではシコウ、呉音ではセギョウです。しかしこのごろではセコウと、上を呉音、下を漢音で読む読み方がふえています。

「精霊・施行・後生・人間」は、古く仏教と共に入つて来た言葉が多く、「正月」の場合と同じですが、「精霊・施行・後生・人間」と漢音で読む場合、意味や使い方に違いがありますので注意しましょう。

さて、呉音がいつごろ伝来したかわかりませんが、遅くても四世紀から六世紀の間に普及し、漢音は七世紀以降、主として学者の間に用いられました。十二世紀以降、仏教と共に入つてきた新しい音を総称して「唐音」と言います。

「明（ミ）・清（シ）」という国名や、「北京（ペ）・行灯（ロ）・普請」などがこれです。

# 乙

おん オツ

1画 乙 はねる

なりたち 屈曲してまっすぐのびないことを表した指事字。十千の第二番目として用いられる。きのと（木の弟（乙））。



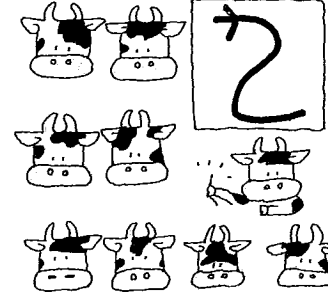
いみじゆく  
▼十千の第二番目。  
▼第二番目であること。  
▼甲乙：甲と乙。第一番と第二番。すぐれているものと劣っているもの。用例甲乙つけがたい。（どちらがすぐれているか決められない。）  
乙女：年若い娘。少女。  
さんこう 特別なよみかた ↓ 早乙女

# 九

おん キウ・ク このの・こののつ

1年 2画 九 はねる

なりたち 屈曲して進めず、先がおさえられてそれ以上進めない形を示した指事字。乙に頭を止める線を加えた。窮と同音同義の字。きわまること。転じて数の窮極である「このつ」を表す。



いみじゆく  
▼こののつ。数の多いこと。  
九死に一生を得る：ほとんど死にそうなる危いところを、かろうじて助かる。  
九拜：何度もおじきをして敬意や謝意をあらわすこと。  
例 三拜九拜  
九九：一から九までの各数の掛け合わせ。また、その表や数え方。  
九牛の一毛：多くの牛の毛の中の一毛ということから、取るに足らないささいな事をいう。  
九分九厘：百のうち九十九まで。ほぼ間違いなく。用例 私の計画は九分九厘成功するだろう。  
九重：①ものが九つ重なっていること。②皇居。都。  
九輪：塔の上の九段のかざり。よみがた 九天

# 乙九